

活用力の育成を目指して

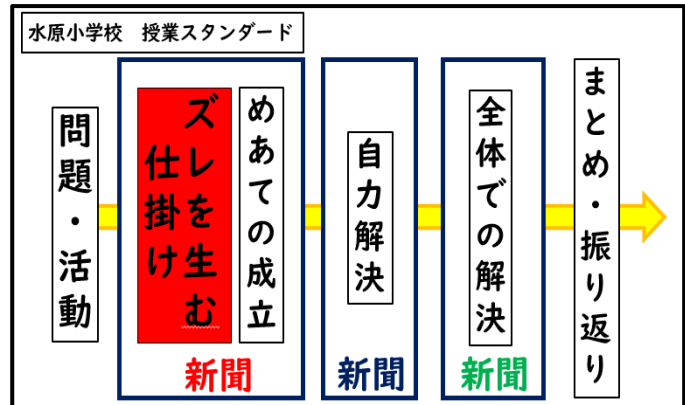
～「読む力の育成」と「主体的・対話的で深い学びに向かう授業作り」を通して～

阿賀野市立水原小学校

1 N I E実践のねらい

(1) 授業場面でのN I E実践

当校では、「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実現に向けて、「水原小学校 授業スタンダード」をつくり、授業研究を進めてきた。そして、N I E実践を通して、新聞教材を授業にどのように取り入れられるかを探ってきた。その中で、授業では、以下の3つの視点で新聞を取り入れることができると考えた。



【授業における新聞活用の視点】

①新聞記事から、学習課題を設定する。

授業導入部で新聞記事を提示することで、既習とのズレや友達の考えとのズレ、生活経験とのズレなどを生み、子どもの問題意識を高めて学習課題を設定する。

②新聞記事を、考えるための材料にする。

学習課題を解決するためのきっかけや考えるための材料を新聞記事の中から探す。新聞記事を使いながら、問題解決を図る。

③新聞記事で、予想や考えを確かにする。

学習を進めていく中で子どもから出された予想や考えを、新聞記事を用いて確かにする。

(2) 日常活動でのN I E実践

当校の子どもの実態として、全国学力状況調査や県小教研学習指導改善調査等のように、学習した時とは異なる問い方をする問題に対応できない様子が見られた。その原因の一つとして、語彙の量や言葉の使い方、文章の読み方など、読むために必要な力に弱さがあると考えた。そこで、子どもの「読む力」を高めるために、授業以外の日常活動にも以下の3点で新聞を活用した取組を行うことにした。

【「読む力」を高めるための新聞活用】

①新聞に親しむための環境整備

②新聞に親しむための時間の設定 (N I Eタイム)

③N I E実践のための職員研修

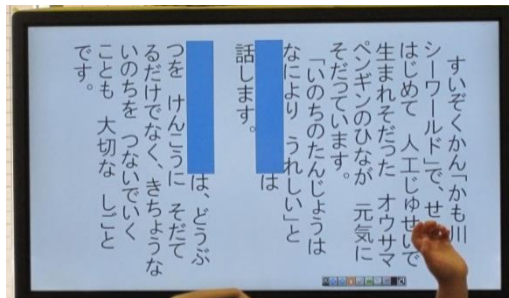
2 実践の概要

(1) 授業実践 ～授業における新聞活用の視点から～

①新聞記事から、学習課題を設定する

2年生 国語科 「どうぶつ園のじゅうい」

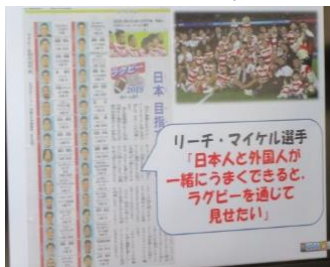
始めに、ペンギンの人工授精を成功させた飼育員の新聞記事を、写真⇒見出し⇒リード文と段階的に提示した。リード文の「飼育員」と書かれた部分を隠して提示し、何が入るか予想させた。前時までに、動物の命にかかわる仕事をしているのは獣医だ、と捉えていた子どもに、隠していた部分に飼育員が入ることを伝えと、子どものもつ既習の獣医や飼育員の仕事に対する捉えにズレが生まれ、子どもたちは、「飼育員はどんな仕事をしているのか調べよう。」という学習課題を設定した。



②新聞記事を、考えるための材料にする

4年生 道徳 「互いのちがいを受け止めて」

学習課題成立後、ラグビー日本代表が一つにまとまるために行った取組の記事を提示した。記事を読み取ることを通して、日本人と他国の人が仲良くするために必要なことを考えた。



③新聞記事で、予想や考えを確かにする。

3年生 社会科 「工場働く人と仕事」

「食品メーカーで働く人のエプロンの色に違いがあるのはなぜか。」という学習課題について予想させた。その後、予想を交流させ、「予想を確かめたい」という目的意識が高まった段階で、新聞記事を配付した。子どもたちは、必要な情報を見付け出すために、熱心に新聞を読み進めていた。



(2) 日常活動の実践 ～N I Eタイムの実践から～

○「ひらがな探し」「おとな新聞から漢字探し」

新聞記事から、ひらがなや片仮名、漢字探しの取組を行った。

1 学年では、新潟日報「おおきくなったら」の記事を4月から活用し続けた。学習の進度に合わせて、「ひらがな探し」⇒「片仮名探し」⇒「漢字探し」と内容を変えながら取り組ませた。授業場面でも「おおきくなったら」の記事を扱ったが、初めて読む記事でも、文節を正しく捉えて音読するなど、N I Eタイムで身に付けた「読む力」を発揮する姿が見られた。



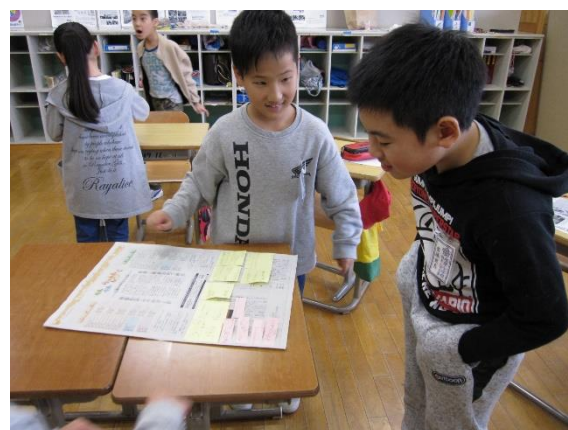
○「あなたはどっち？」

一つの事象について、異なる立場で書かれた新聞記事を取り上げた。自分の立場を決め、新聞記事から根拠を探しながら、自分の考えをまとめさせた。自分の考えに説得力をもたせるために、必要な情報を選択しながら読むことができた。



○「ランキング1位は？」

子ども新聞「ふむふむ」に掲載されるランキングの1位を予想する活動を行った。自分の生活経験とつなげながら予想したり、友達と相談しながら予想したりする姿が見られた。



(1) 学年・教科・単元・授業者

5年生 国語科 「グラフや表を用いて書こう」

授業者 菊地 麻美

(2) 本時のねらい

携帯電話の普及によって起こるデメリットを新聞記事や資料から読み取り、それを根拠にしながら今後の携帯電話との付き合い方について、自分の考えをもつことができる。

(3) 本時の手立て

①問題意識を高めるための仕掛けについて

携帯電話が多く の家庭に普及したことによって、携帯電話は子どもたちにとって身近で、魅力的な存在となり、多くの児童が「欲しい」「使いたい」と考えている。携帯電話の便利さだけに目が向いている児童に、携帯電話の普及によるデメリットが書かれた記事の見出しを提示した。子どもは、これまでの自分の携帯電話への見方に対するとらえと見出しとの間にズレを感じ、もっと詳しくデメリットについて知りたいという問題意識を高めることができると考えた。メリット・デメリット両方の視点で携帯電話の使用について考えさせることで、今後の携帯電話との付き合い方について自分の意見をもたせるきっかけにしていきたいと考えた。

②必要感のある対話にするための仕掛けについて

まず、携帯電話のデメリットについて書かれた記事の見出しだけを提示した。そして、見出しから興味をもった記事を選ばせ、デメリットが書かれている部分に線を引きながら読ませた。デメリットを知った後、携帯電話はいいものと言えるかどうかを表すプラマイメーターで表現させた。メーターによって一人一人の立場を可視化し、友達と自分の考えの違いに気付かせることで、どうして友達はそう考えたのかについて関心をもって対話することができると考えた。また、対話を通して、携帯のメリット・デメリットが共有化され、自分の考えをもつための材料を増やすことができると考えた。

③本時で扱う新聞について

本時では、携帯電話の普及によって起こるデメリットが分かるような複数の記事や資料（「ネット・ゲーム依存の増加」「いじめやトラブルの原因になる」「携帯電話の使用と学力低下の関係」「目の病気」「スマホによる交通事故」「スマホの不正決済」）を取り上げた。これらのどの記事を選択しても、児童が課題に対する主張をする際の根拠となるようにした。

(4) 授業の実際

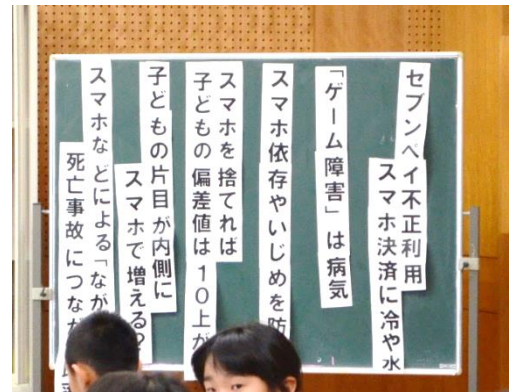
①問題意識を高めるための仕掛けについて

子どもたちにスマホのメリット・デメリットを出させて対比させることで、めあての設定につなげようと考えていた。しかし、子どもたちの知っているデメリット

が教師の予想していたものより多く、「スマホは楽しいこと、便利なことばかりではない。デメリットもたくさんある。それなのに、どうして持つ人が多いのだろう。」というズレを生むまでに至らなかった。

ただ、**メリットを出す**→**デメリットを出す**
→**新聞記事の見出しの提示**によって、問題意識の高まり、既有知識の共有化を図ることができた。

新聞の見出しのみの提示は有効だった。「記事を読みたい」という、子どもたちの意欲の高まりにつながっていた。



②必要感のある対話にするための仕掛けについて

見出しから興味をもった記事を選び、自由に読ませるスタイル（一人で、グループで、1枚だけ、複数枚、動きながら、座ってなど）をとったことで、記事を読みながら対話する姿が多く見られた。

プラマイメーターによって、記事を読むという活動から、読んだ記事の内容をもとに自分の考えをもつ活動に変わった。しかし、一人一人のメーターに大きな違いがなかったため、対話は生まれにくかった。班での対話ではなく、マグネットの位置を見ながら自分で交流する人を決めたり、100%のメーターにしていた子の意見を取り上げてのゆさぶりができたりするとより有効な対話になったと思う。

また、考えの根拠が新聞記事のどこにあるのか、読み取ったことをどのように生かしたのかを話したり書いたりできるようにする手立ても必要であった。



（５）授業の成果と課題

- 子どもたちがもつ表面的な知識は、新聞を読むことで深い理解となり、今後の自分の行動を決める根拠になっていた。記事の内容を根拠にしてメーターを決めたり、振り返りを書いたりするなど、記事と考えを行き来する姿が見られた。
- これまでのNIEタイムの積み重ねによって、読むスピードが速くなった。また正確に内容を読み取ることができるようになった。そのため、本時での新聞を使った学習が成立したと考えられる。
- △新聞の提示の仕方について、メリット・デメリットの両方についての記事か、同テーマの異なる記事（学力低下に関する2つ記事の比較など）か、他にも方法があるのかもっと吟味する必要がある。

4 成果

(1) 授業場面での成果(○)と課題(△)

○子どもの問題意識を高めることができる

(例) ・記事を抜粋して提示 ・段階的に提示 ・ICT機器の活用 等
授業の導入段階で、記事の提示の仕方を工夫することで、子どもの思考にズレが生まれ、子どもの問題意識を高めることができた。

○課題解決を図ることができる

(例) ・考えるための資料として ・確かめるための材料として 等
課題解決のヒントや考えるための材料として新聞を活用することで、子どもは新聞記事の記述を丁寧に読みながら、課題解決を図ることができた。

△子どもの実態に合った記事や分量の選定

子どもが新聞記事の中から考えの根拠や解を探し出すのに、多くの時間を費やす傾向があった。子どもの発達段階に合わせ、与える記事や指示、発問などの吟味が必要だった。また、今後も日常的な新聞活用を継続して、子どもの読む力を高めていかなければならないと考える。

(2) 日常活動での成果(○)と課題(△)

○語彙の量を増やすことができる

(例) ・世の中の動きについて、話題にする姿
・新たな言語を獲得し会話の中で使う姿 等

一つ一つの新聞記事の中には、その記事で取り上げられている内容に関する言葉が集まっている。そのため、日常的に新聞記事に触れさせることで、子どもの語彙の量を増やすことにつなげることができた。

○学習意欲を高めることができる

(例) ・生活経験と結び付く内容 ・世の中で話題になっている内容 等

新聞記事には、子どもの生活経験と結び付きの強い内容が多く、子どもの学習意欲を高めることができた。

△新聞を活用した学習の良さを子どもに実感させること

(例) ・「新聞についての理解」を深める ・「新聞についての理解」を活かす

子どもが新聞を活用して学習する良さを、まだ十分に感じさせるまで至らなかった。新聞記事の論理的な記述の仕方を学び(新聞についての理解)、新聞の逆三角形の構成で意見文を記述させたり、事実と意見を分けて記述させたりするなど(新聞についての理解を活かす)、新聞そのものの理解を深めさせ、その理解を活かすような学習活動を工夫していくことが必要である。

(古谷 和也)